



地域で

子どもたちを
育もう！
Kids



緑に囲まれ育まれる子どもたち

一七戸町立城南児童館 放課後子ども教室（青森県）一

古くから南部藩の軍馬の産地として知られる青森県の七戸町。町立城南児童館の放課後子ども

教室の遊び場は、草原、山林、畑など屋外が中心。そこでの遊びから、人間力が育まれる様子を、館長補佐で同館のコーディネーターの坪廣子さんから伺った。

（取材・文／井上 達也）

思い思いの遊びの中から育まれるもの

「このカエルは、小学校（隣接する城南小学校）のグラウンドの近くで見つけたんだよ」。アマガエルなど数匹のカエルがつまった虫かごを、3、4年生が自慢げに持ち上げた。「カエルを捕まえるのは面白い」と女の子も目を輝かせた。城南児

童館の敷地は約8800平方メートルと広々とした空間で、子どもたちは学年を超えた集団で、それぞれの遊びに熱中する。

「遊具など遊ぶ物は少ししかないけど、それがいいのです。自然があれば、子どもたちは遊びを工夫します」と坪さん。取材の日、一生懸命石を砕いている児童がいたが、これも実は偶然から始まった遊びとのこと。「チヨークで遊びたい子がいたけどあげられなかったのがきっかけで、石をチヨーク代わりにしたところ、偶然赤くきれいな粉ができて。子どもたちは「粉集め」と呼んでいますが、さらに、その石が薄くはがれることがわかり、はがして、それを「墓石^{ほせき}」と呼んだり」。

外で遊ぶことで、子どもたちは危ないことにも出会う。「春先、ニンニク掘りと称して、知らないで水仙の球根を抜いたので。その時は水仙の球根には毒があることをきちんと伝えました」。



目を輝かせてカエル
を見せてください！



遊びの中で出合う危険を保護者に代わって、きちんと伝えることは重要である。また子どもも学び、成長する。

食べず嫌いは畑でなくなる



近年、総合的な学習の時間などで、農作業の重要性や効果がいわれるようになり、「農業ブーム」といえる現象も学校で起きている。城南児童館のグラウンド横には畑があり、ジャガイモや大豆（枝豆）などが植えられている。児童館は目標として食育を掲げ、その一環として3年前から農作物を植えるようになった。今年は思わぬ別の収穫もあったとのこと。「ジャガイモの苗を植えるのは強制でなく、あくまで興味のある子のみです。毎日約70名が参加しますが、苗を植えたのは約半分。その後は、子どもたちは日々の遊びの中でジャガイモの成長を見守ります。友達につれられて来たイモ嫌いの子は、いやだいやだと文句を言いながら植えていました。でも収穫の時には大喜びし、味噌汁もおかわりして」。

周辺を畑に囲まれているものの、児童館に来る子どもの7割はサラリーマン家庭で、農家の子ども大半は農作業の体験は少ないとのこと。学校の授業とは違って、自らの意思で植物を育てることが、子どもの心に何か変化を与えているようだ。

地域の人との交流で子どもが成長する

2年前から始まったグラウンドゴルフでは、一般の町民の方10名が協力するが、交流の中で子どもたちに成長が見られた。「プレーの間、親でも教師でもない大人に、待ちなさいとかルールを守ろうねと言われるだけで、子どもたちは気づき、できるようになります」。

児童館では、学校と違い子どもたちが開放的になり、つつい羽目を外すことも。そのようなときに地域の人の一言で当たり前の習慣や礼儀が身につく。改めて地域力の重要性も感じた。



粉集めに熱中し、
一生懸命石を砕く

